

# 城南魂

正しい心  
美しい心  
粘り強い心

## ブドウ畑の宝物

『お父さんと3人の息子たちがいました。4人は広いブドウ畑をもっていました。4人とも真面目で、たいへんな働きものでした。

ある日のこと、お父さんは病気になってしまいました。子どもたちは一生懸命看病しましたが、なかなか病気はよくなりません。自分の命が残り少ないことを、お父さんは悟ったのでしょう。子どもたちを枕元に呼ぶと、言いました。「お前たち、これまで一生懸命わたしの看病をしてくれてありがとう。だが、わたしはそろそろ神様のもとへ行くときが近づいてきたようだ。わたしが神様のもとへ行く前に、おまえたちに伝えておきたいことがある。実は…、あのぶどう畑には宝が埋まっているのだ。」

3人の息子たちは驚きました。あの畑に宝が埋まっていたなんて！初めて聞く言葉です。

「いったい、畑のどこに埋まっているのですか？」

「それは・・・」

お父さんは言いかけてましたが、お父さんはそのまま天へと召されてしまったのです。

「あの広い畑の一体どこに宝が埋まっているのだろう？」

お父さんのお葬式を済ませると、3人の子どもたちは宝のことが気になり、3人で分担して広い畑のあっちこっちを掘り返しはじめました。1ヶ月ほどで畑中を掘り返し尽くしましたが、宝は見つかりませんでした。「どうなっているんだ？」あの言葉はうそだったのでしょか？

やがて子どもたちは宝をあきらめ、またせっせと畑仕事に精を出しました。秋になりました。ブドウ畑には今年もたくさんのブドウがなりました。それらを町へもっていくと、とても高い値段で売れました。3人の元にはたくさんのお金がいってきました。

「そうか、畑の宝の意味がわかったぞ！」

ある日、息子の一人が言いました。

「お父さんが宝が埋まっていると言ったのは一生懸命、畑仕事をしろということだったのさ。そうすれば、立派なブドウがたくさんとれる。それがぼくたちにとっての宝ということなんだ。てっきり畑の下に何か埋まっているものだとばかり思っていたけれどそれは違っていたんだ。今年はぼくらが宝さがして畑をあちこち掘り返したのが、たくさんの畑を耕したことになる、ぶどうがたくさんとれたのさ。」

その説明を聞いて、2人も納得しました。その次の年も、3人は秋にまたすばらしいブドウを手に入れられるよう一生懸命畑の土を掘り返し、畑を耕したのです。』

(引用文献) 向山洋一 「子どもがじっと耳を傾ける魔法のおはなし」

**1,2年生は学年末テスト、3年生は最後の実力テストが終わり、3月4,5日には県立一般入試を迎えます。人は目先のことに捕らわれがちです。今頑張ったことがすぐ目に見える結果になるとはかぎりません。しかし、努力をし続けていれば必ず自分の成長につながります。そして、頑張ったという経験が自分の自信につながり、今後の人生の財産になります。今一度自分に問いかけてみてください。テスト勉強は頑張れましたか？**

いよいよ3学期も残り1ヶ月ほどとなりました。1,2年生は3月4日、5日に進路学習、3年生は3月7日に卒業式を迎えます。

テストや部活動、体育大会や合唱コンクール等の行事、そしてこれからの人生、「努力をし続ける大切さ」を忘れず、結果がすぐに出なくてもくじけず次に向かって努力を重ねましょう。

〈保護者様へ〉

寒くなり、遅刻ぎりぎりの生徒が増えてきているように感じます。急いでいると事故に遭う危険性が高まります。少しでも余裕をもって登校するようご家庭でも話をさせていただきますよう、お願いいたします。また、朝登校時は校門付近が大変混雑します。朝登校時での西門からの入校のご協力、今後ともよろしくお願いいたします。